



日本から一番近い国の 首都ソウルから



ソウル日本人学校 小林 哲也

韓国は、日本と地理的な距離も近く、歴史的にもつながりが深い国です。それゆえ、日韓に関する情報を目にすることが多いと思います。そうした情報から、私自身も不安とともに渡韓しました。しかし、実際に住んでみるとそうした不安はすぐなくなりました。老若男女問わず、ソウルの人々はとても親切だと感じます。昔から、「困っている人を助ける」という教えが大切にされていて、相手が誰であろうと声をかけてくれます。日本に対して好意的に感じている人も多く、日本人だと分かると日本語で話しかけてくれる人もいます。地理的な距離だけでなく、心の距離も近いことを実感し、安心して生活を送っています。



ワクニコハッピーフェスティバル 全校合唱



韓国の子どもたちとの合同合唱

日韓は文化的なつながりも深く、こちらでは日本のアニメや漫画が人気で、店には関連グッズが多く並び、テレビでは日本のアニメが毎日放送されています。それらを放送するテレビ局や新聞社が多く建ち並ぶDMC（デジタルメディアシティ）の中にソウル日本人学校はあります。学校は、1つの校舎に幼稚部から中学部まで、330名ほどの園児、児童、生徒が在籍しています。その良さを生かし、異年齢集団による様々な交流を行っています。運動会や「ワクニコハッピーフェスティバル」と呼ばれる学校祭などの全校行事の他に、幼稚部年少組から中学部3年生までの縦割り班による昼食会や集会行事、小学部による園児への読み聞かせや、中学部の保育体験など、計画的に取り組むことで、心豊かな子が育っています。

国際理解の観点では、近隣にある現地校との交流会を年に2回行っています。週に一回ある韓国語の授業を通して学んだ表現を用いながら、日本の昔遊びをしたり、お互いの言語で歌を一緒に歌ったりする活動などを行っています。昨年担任した6年生の修学旅行では、平昌オリンピックが開かれた東海岸を訪れ、韓国の歴史や自然に触れました。また、中学3年生が社会の時間にまとめた日韓の歴史や課題についての発表を聞き、お互いの国について理解を深めました。将来、日韓の架け橋となり、世界で活躍する子どもたちの育成を目指して、学校全体で取り組んでいます。

ここでの生活が2年半経とうとしています。全国から集まった先生方や子どもたちと共に、ここでしか出来ない経験を沢山させていただいています。こうした機会をいただけたことに感謝しつつ、ソウルで過ごす子どもたちとの時間を大切に、今後も多くのことを学んでいきたいと思っています。



現地校との交流会



6年生修学旅行 北朝鮮の潜水艦